

平成 24 年度 吹田を知る【地域福祉編】

「地域の人と協働できる職員育成のための地域福祉活動体験実習」

## 報 告 書



平成 25 年（2013 年）1 月

吹田市 福祉保健部 地域福祉室 福祉総務課

## 1 地域福祉活動体験実習実施の目的

- (1) 市民と行政の協働（パートナーシップ）で地域福祉計画をすすめるため
- (2) 地域福祉計画や地域福祉活動について職員への周知を図るため
- (3) 実際に地域福祉活動に参加することで、民の役割である「地域福祉活動の推進」を理解し、地域福祉計画や地域福祉推進における公民協働についての理解を深め、福祉意識の向上を図るため

## 2 参加者数及び内訳

- (1) 参加人数 30名
- (2) 所属別

市民生活部	市民税課	1名	高齢政策課	1名	
まち産業活性部	地域自治推進室	4名	介護保険課	1名	
	地域経済振興室	3名	障がい福祉室	2名	
こども部	子育て支援室	2名	国民健康保険室	2名	
福祉保健部	福祉総務課	3名	環境部	事業課	1名
	生活福祉課	2名	教育総務部	学校管理室	1名
	亥の子谷地域保健福祉センター	1名	地域教育部	青少年クリエイティブセンター	1名
	千里NT地域保健福祉センター	1名	議会事務局	総務課	1名
	福祉指導監査室	3名			

(8部 17室課)

- (3) 役職別

次長級	1名	課長級	2名	主幹級	2名	主査級	6名
主任級	7名	係員	12名				

(平成24年(2012年)12月14日時点)

## 3 事前講義

- 日時：平成24年(2012年)10月3日(水)午前10時から正午
- 場所：メイシアター 集会室
- 内容：1 第2次地域福祉計画の推進における公民協働について  
2 社会福祉協議会、地区福祉委員会活動について  
3 コミュニティソーシャルワーカーとの座談会
- 配付資料

体験実習参加希望調査票、パワーポイント資料、アンケート、グループ分け図  
第2次地域福祉計画概要版、第2次地域福祉計画リーフレット  
CSW事例集、社協リーフレット、CSWリーフレット、ボランティアセンターリーフレット、社協ブログ案内、第2次地域福祉活動計画リーフレット、共同募金会だより、赤い羽根募金案内、地域ふくし協力金案内

#### 4 地域福祉活動体験実習への参加

●実施時期 平成24年(2012年)10月~12月

●子育てサロン 8地区 ●いきいきサロン 6地区

●子育てサロン、いきいきサロンは原則として社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー1名、福祉総務課職員1名が同行

活動名	月日	時間	場所	参加者数
吹 三地区子育てサロン	10月16日(火)	9:00~	浜屋敷	2
千 一地区いきいきサロン	10月24日(水)	10:30~	千一地区集会所	2
東 地区子育てサロン	11月2日(金)	10:00~	吹東町集会所	2
青山台地区いきいきサロン	11月2日(金)	13:00~	青山台市民ホール	2
吹 一地区子育てサロン	11月8日(木)	10:00~	内本町コミュニティセンター	3
吹 一地区いきいきサロン	11月9日(金)	14:00~	内本町コミュニティセンター	4
片 山地区子育てサロン	11月12日(月)	10:00~	朝日が丘児童センター	2
竹見台地区いきいきサロン	11月16日(金)	13:30~	竹見台市民ホール	3
片 山地区子育てサロン	11月19日(月)	10:00~	朝日が丘児童センター	2
山 手地区いきいきサロン	11月19日(月)	13:30~	山手地区公民館	1
豊 一地区子育てサロン	11月21日(水)	10:00~	豊一児童センター	2
山 三地区子育てサロン	11月22日(木)	10:00~	亥の子谷コミュニティセンター	3
千 新地区子育てサロン	12月5日(水)	10:15~	千里山竹園児童センター	3
吹 一地区いきいきサロン	12月14日(金)	14:00~	内本町コミュニティセンター	1

延べ参加者数32名

(子育てサロン、いきいきサロン両事業の参加者 2名)

## 5 地域福祉活動参加報告

※時間については、サロンの開催時間ではなく、実習として参加した時間（準備や反省会への参加も含む）となっています。

地区及び実習場所		日時			
吹三地区子育てサロン (浜屋敷)		10月16日(火) 午前9時から			
実習者	中村 佳世 (地域自治推進室) 西村 加奈 (地域経済振興室)	担当	三枝	社協	寺沢
内容	<p>9時から吹三地区子育てサロンちゃちゃの準備を行う。会場は浜屋敷で庭と畳の部屋をつないだ、とても広く気持ちのよい空間を使用していた。</p> <p>子育てサロンに使用する資材は全て主任児童委員が持ち込んでいた。個人の倉庫に保存しているようだった。この地区ではすべりだいやブランコ、大型のボールプールがあった。全て家庭には置いてなさそうな大型のものであり、子どもたちに大人気であった。皆で一斉に荷物をおろし、9時30分には概ね準備は終わった。</p> <p>吹三地区のスタッフは男性がとても多かった。スタッフは皆ユニフォームの代わりにエプロンをつけることとしていた。浜屋敷では段差が多くあるので、スタッフの数も多くいた。子育てサロン専属のボランティアもいるようで、元保育士や障がいについて詳しい方も委員として参画しているようである。10時からは段々と親子が来た。ほとんどが女性の親だったが、男性も一人だけいた。参加した子どもの月齢の幅は広く3~4ヶ月くらいの子もいれば、3歳くらいの子も来ていた。奥の部屋は月齢の低い子たちが集まり、手前の部屋やお庭では比較的大きい子たちが遊んでいた。</p> <p>この日は保育園の保育士も来ていたが、ここではフォローに徹していて、福祉委員がアコーディオンを弾いたり歌体操を行ったりと楽しくやっておられた。親同士で連絡先の交換なども行われていた。</p> <p>&lt;参加者&gt; 69人    &lt;スタッフ&gt; 21人</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜屋敷の広いスペースを活かし、たくさんの遊具もそろっていました。また、ボランティアの方が積極的に交流しやすい雰囲気を作っておられて、参加していて楽しかったです。子どもの遊び場所、お母さん達の交流、世代間の交流、地域活動の活性化等、色々なものがそこにあると思いました。</li> <li>・実際に福祉委員会の方とお話できて、生の声が聞けたことがよかった。</li> </ul>				

地区及び実習場所		日時			
千一地区いきいきサロン (千一地区集会所)		10月24日(水) 午前10時30分から			
実習者	大音 秀則(地域経済振興室) 嘉儀 輝子(障がい福祉室)	担当	三枝	社協	大谷 大上
内容	<p>千一地区集会所の一部屋を使用し、いきいきサロンが始まる。10時30分には参加者もたくさん集まってきた。特に男性が他地区に比べて多かった。まずは、みんなで円になって準備体操を行った。椅子に座りながらできる体操で、音楽のリズムにのって体をほぐした。その後、スプラッシュというゲームを行った。ルールはそれぞれ赤チーム青チームに分かれて、ずっしりとしたボールを5mくらい離れた円の中心を目標に転がしていく。一見簡単そうに見えるゲームだったが力加減が難しく、うまくボールが枠に入ると皆とても笑顔になっていた。ゲームの途中で福祉委員がうまく円に入れるコツを伝授したり、参加者同士で「なかなか難しいね」「あなた上手ね」と盛り上がっていた。</p> <p>その後はテーブルと椅子を出してのお茶タイムとなった。スプラッシュが大いに盛り上がったため、あまりお茶の時間はなかったが、みなさんとても楽しそうに話されていた。千一地区では月に2回いきいきサロンが開かれているようで、参加者は外に出ることで気分がリフレッシュするようだった。次回は絵手紙が行われるとのことである。参加者達はこの日のためにとってもお洒落をしてきて、サロンの時間を本当に楽しんでいる様子だった。</p> <p>&lt;参加者&gt; 20人 &lt;スタッフ&gt; 10人</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉委員の方々が工夫されて楽しい時間であると感じました。参加者がとても元気で笑顔でおられることが印象的でした。</li> <li>・レクリエーションを行うことで、大きな声を出し大きな声で笑って、そんないきいきとされている様子を拝見し、とても大切なことだと実感しました。</li> </ul>				

地区及び実習場所		日時			
東地区子育てサロン (吹東町集会所)		11月2日(金) 午前10時から			
実習者	松田 鉄平(障がい福祉室) 辻川 和人(学校管理室)	担当	山本	社協	中野 寺沢
内容	<p>この日は特にゲームなどをするでもなく、フリースペースで自由に集会所のおもちゃを使ってめいめいに遊ぶという内容。開始時間から徐々に集まってくる親子がそれぞれおもちゃで遊んだりお母さん同士がお話をしたりしているのが印象的だった。よく来られている親子も多かったようで、人見知りをする子どもも少なく、スタッフも参加者に気さくに接していたためサロン内の雰囲気も良かった。また、しばらく遊んだ後にはサロンから軽めのおやつがふるまわれたが、職員やスタッフにおやつを分けてくれる優しい子どももおり、こういったふれあいの場で形成されるそういった感情を大事にしてほしいと思ったものだった。</p> <p>今回の体験実習の職員は男性ばかりであったためか、最初は端の方で様子を見ているのみだったが、先述のような雰囲気も手伝ってか、次第におもちゃなどを通じて子ども達と遊ぶようになっていった。自分の子どもと接するのは勝手が違って最初どうしていいか分からなかった、話しかけて泣かれたりしたらどうしようと思ってなかなか積極的になれなかった、といった感想が聞かれたが、最終的には笑顔で子ども達と遊んでいる場面が多かったように思う。</p> <p>夏には祭で使うヨーヨー釣りの桶などをプール代わりにして水遊びなども行ったりするとのことで、季節ごとに趣向を凝らしたイベントごとを行っていることが伺われた。</p> <p>最後にはみんなできちんとおかたづけ。みんなきちんとお手伝いするいい子達ばかりでした。</p> <p>&lt;参加者&gt; 29人    &lt;スタッフ&gt; 3人</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもがなかなか慣れてくれず、自分と子どもとの距離の取り方に苦労しました。</li> <li>・子どもと接する機会が少なく、はじめはかなり戸惑いましたが、徐々に子どもたちから寄ってきてくれ自然に馴染むことができました。多くの子どもたちが集まり、親子が交流する姿を見て地域の力は大事ななと思いました。</li> </ul>				

地区及び実習場所		日時			
青山台地区いきいきサロン (青山台市民ホール)		11月2日(金) 午後1時から			
実習者	吉岡 由起子(地域自治推進室) 信川 泰秀(事業課)	担当	原田	社協	水田
内容	<p>今回のいきいきサロンでは、クリスマスリースづくりが企画されていた。13時前から、スタッフの方と会場のセッティングや、リースの飾りとして使うリボンの下準備等をおこなった。まつぼっくりは、このために、あらかじめ学校などで拾ってきたものだということであった。スタッフは福祉委員2名と民生委員6名で準備していた。</p> <p>13時20分ころにはほぼ準備も整い参加者も集まりだしたが、参加者数は少なかったとのことであった。翌日からの地区公民館の行事(文化祭)の準備と重なったためと思われる。</p> <p>この日は、リースづくりということもあってか、福祉委員長以外はすべて女性であった。委員長にお聞きしたところ、ほかの日でも男性の参加は少なく2~3名とのことであった。</p> <p>昨年は、高齢クラブのコーラス部と同じ時間に同じ会場でサロンを行っていたところ、参加者が減ってしまったため、今年は曜日を変更して参加者もやや増えたとのことであった。</p> <p>参加者は、頻繁に参加されている人ばかりであったようで、それぞれ思い思いにリースを作成しながら、和気あいあいとお話しされていた。中に病気のためしばらく参加できずにいた方がいて、来られた際にスタッフの方が声かけされていた。また、スタッフの一人が講師として、参加者ひとりひとりの様子を見て、必要な手助けや助言を行っていた。</p> <p>1時間ほどでリース作りを終えた後、お茶とお菓子が用意された。そこでも皆でおしゃべりを楽しんでおられた。</p> <p>&lt;参加者&gt; 22人    &lt;スタッフ&gt; 8人</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の皆さんがとてもいきいきされていたのが印象的でした。地域の高齢者と直接フランクにお話しすることができ、色々なこととお聞きできたのでとても貴重な体験ができました。</li> <li>・活動に関わる人たちは、それぞれの特技を生かしながら自主的に運営をされていて、無理なく楽しくサロンを盛り上げていこうという姿勢を感じました。このような活動がボランティアで行われているということも、初めて知り貴重な経験となりました。</li> </ul>				

地区及び実習場所		日時			
吹一地区子育てサロン (内本町コミュニティセンター)		11月8日(木) 午前10時から			
実習者	田中 芳夫(地域経済振興室) 田口 智士(生活福祉課) 丸山 修司(生活福祉課)	担当	三枝	社協	寺沢
内容	<p>内本町コミセンの多目的ホールの一部を使用し10時から子育てサロンが開催された。</p> <p>この日は寿町の児童センターで焼き芋をするとのことで、参加者は少ないかもしれないとCSWから報告があった。また、福祉委員長が公園でどんぐりを集めてきたようで、参加者に遊んでもらえたらと話していた。ペットボトルにどんぐりを入れてマラカスにしたり、つまようじをさして独楽づくりなどできるように準備していた。実習参加者は親子が来ると、背中に子どもの名前を書いたテープを貼付し、笑顔で対応していた。</p> <p>子どもたちは大体1歳から2歳の子たちが集まっており、福祉委員会で用意したおもちゃやどんぐりで遊んだりしていた。また、保育園の先生たち(こばと保育園、吹一保育園、保育園の先生OB)が、絵本の読み聞かせや歌体操、薄いスカーフのようなものを使っての遊びを行った。さらに、福祉委員会から高齢者の方たちが作ったネコペンダント(折り紙製)をプレゼントし、子どもたちは喜んでいたのである。1歳であっても男の子はとても元気で動き回ったり走り回ったりする子もいた。女の子は比較的大人しい遊びをしている子が多かった。子どもたちと目が合い手を振ったり笑顔でいると、子どもたちも嬉しそうに顔していた。</p> <p>&lt;参加者&gt; 14人    &lt;スタッフ&gt; 5人</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中で生活するうえで市役所だけが主導ではなく、地域の人々が活動をするプラットフォーム的な位置付けになっているように感じ、良い事業だと思いました。</li> <li>・就学前の子育て世代の方が、顔見知りになる貴重な機会だと再認識しました。子どもを預けて買い物したり、お茶を飲んだりする場を商店街が提供できれば、商店街も活性化するのではないかと感じました。</li> <li>・子育てしていくうえで地域の資源を活用し、母親をサポートしていく事業なので、もっと予算を増やしても良いと感じました。</li> </ul>				



地区及び実習場所		日時			
吹一地区いきいきサロン (内本町コミュニティセンター)		11月9日(金)午後2時から			
実習者	伊藤 悦史(地域自治推進室) 中村 直美(地域自治推進室) 嶋田 孝(福祉指導監査室) 安井 克之(福祉総務課)	担当	三枝	社協	寺沢
内容	<p>普段は地域の方が健康体操を指導されているようだったが、この日は所要があるとのことでCSWが対応しているようだった。他地区に比べて男性の参加者が多かったように思う。参加者の皆さんは円になって手の運動、首の運動、腰の運動など、いずれも椅子に座りながらの健康体操を行った。参加者が怪我のないようCSWから「無理はしないでくださいね」と何度も声をかけていた。また、体操は随時参加者と対話を行い、褒めながら進行していくので賑やかな雰囲気であった。</p> <p>体操を行った後は、内本町のデイサービスセンターから歌詞集をお借りして秋の童謡などを歌った。特に女性参加者は歌を歌うことがお好きなようで「次はこの曲でお願い」とリクエストもされていた。CDやピアノなどの楽器もなかったが皆さん上手に歌われていた。</p> <p>その後は机を皆で用意してお茶の時間となった。実習者達も皆さんの輪の中に入れていただき、短い時間ではあったがお話を伺った。ご自身のお話や、自治会、ご近所付き合いについて、生活の相談や市政の状況など多岐に渡った。皆さんはこのいきいきサロンがあることでとても楽しい時間が過ごせていると話されていた。</p> <p>&lt;参加者&gt; 22人    &lt;スタッフ&gt; 11人</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外に出かけて人と交流する場があることで、地域の高齢者の方たちがいきいきと過ごすことにつながっていて、良い取り組みだと感じました。</li> <li>・いきいきサロンに参加されている方々は、皆とても楽しそうでした。地区福祉委員の方々の地道な活動が、地域住民同士のつながりを支えていることを実感することができました。</li> </ul>				

地区及び実習場所		日時			
片山地区子育てサロン (朝日が丘児童センター)		11月12日(月) 午前10時から			
実習者	江原 真二 (福祉指導監査室) 北川 友子 (福祉指導監査室)	担当	三枝	社協	大谷 大上
内容	<p>片山地区の子育てサロンは月に2回実施しているとのことである。この日参加させていただいたのは今年の4月から行っている「てんとうむし」(0歳から2歳向け)という子育てサロンだった。片山地区福祉委員のお話によると、このサロンは今年の4月から始まったばかりということで地域に周知もしきれていないようだったが、数組の参加者が来られていた。内容としてはボランティアが絵本の読み聞かせを行っており、10時30分から11時50分までに3回同じ内容で実施し、親子には好きな時間に参加してもらえばとのことだった。来られている赤ちゃんは大体1歳くらいの子が多く、手を振ったりすると笑顔を返したりもしてくれた。参加者はサロンの合間合間や終了したときに交流を行っており、子育てサロンが地域福祉のつながりづくりとなっていると実感した。</p> <p>当日は地区福祉委員長や連合自治会長も来られていた。福祉委員長から地区福祉委員会と行政とで定期的に(本日のような)関わり合いを持つことで、お互いの現状も分かりどのように地域福祉を進めていくかの確認になるのではといった意見もいただいた。</p> <p>&lt;参加者&gt; 24人    &lt;スタッフ&gt; 7人</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私が住む街と違い、小学校区で子育てサロンが開催されているので、親同士のつながりもあり、「とても住み良い子育てしやすい街」だなと感じました。</li> <li>・多くの市民の方が参加していて驚きました。参加されている方が、積極的に交流されているのが印象的でした。</li> </ul>				

地区及び実習場所		日時			
竹見台地区いきいきサロン (竹見台市民ホール)		11月16日(金)午後1時30分から			
実習者	古田 彰子(子育て支援室) 吉田 明裕(千里NT地域保健福祉センター) 新屋 美香(高齢政策課)	担当	山本	社協	新宅 水田
内容	<p>この日は、これまで取り組んでいた作品に名札をつけて完成させるため、参加しておられた高齢者の皆様が手作業をされておられました。折り紙で作った花をあしらった作品だったのですがどの方も出来栄が素晴らしく、また同じテーマのもとで作成されているにも関わらずそれぞれの個性が光り、中には思わず唖らされるほどのものがあったのが印象的でした。その後は、軽いおやつをとり、みんなで歌の時間。スタッフや社協職員が前に立って歌う中、参加しておられた高齢者の皆様も楽しそうに歌っておられました。以前から参加しておられることもあってかスタッフや社協職員、参加しておられる高齢者の皆様がそれぞれ非常に親しく、開始時刻に来られない方を心配される方もおられるなど、非常によい雰囲気の中で運営されているサロンであるように思いました。体験実習ということで突然お邪魔させていただいた職員に対しても、スタッフ・社教職員・参加者の皆様から非常にあたたかく接していただきました。特に参加者の皆様からはいろいろなお話を聞かせていただき、職員にとっていい経験となりました。</p> <p>&lt;参加者&gt; 13人    &lt;スタッフ&gt; 6人</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CSWや地区福祉委員会の皆さんが、参加者一人ひとりへ細やかに心配りをされていて、とても居心地のよいサロンになっておりました。参加者の皆さんがサロンを楽しみに出かけて来られていることが良く分かりました。このような継続的な活動が人と人のつながりを作るうえで大切であると感じました。</li> <li>・高齢者の方がとても楽しそうに参加されていたのが、印象的でした。</li> </ul>				

地区及び実習場所		日時			
片山地区子育てサロン (朝日が丘児童センター)		11月19日(月) 午前10時から			
実習者	青柳 成和(子育て支援室) 川根 尚久(青少年クリエイティブ センター)	担当	三枝	社協	大上
内容	<p>この日は準備の時間から入らせていただくことになった。子育てサロンの時間になると、まず、地域を担当する保育士から手遊びやスキンシップ遊びが始まる。くすぐったりする遊びでは子どもたちの笑顔であふれていた。</p> <p>その後、栄養士、歯科衛生士、保健師の相談コーナーが設けられた。子ども達の月齢別に分かれ、それぞれで食事のこと、歯のこと、総合的な相談を行った。実習生も相談の様子についてメモをとっていた。親が相談をしている間、1歳くらいの子もたちは電車やミニカーなどで大人しく遊んでおり、福祉委員や地域福祉担当の保育士が見守りをしていた。大きい子達(2歳~3歳くらい)は児童センターで作ったと思われるダンボール製のお家で遊んでおり、もう一人の実習生はその子どもと遊んでいた。</p> <p>先週に同地区で行われた子育てサロン「てんとうむし」に来られていた親子も何名か来られていた。熱心に保健師等に相談をされている親子も数多くいた。</p> <p>&lt;参加者&gt; 32人    &lt;スタッフ&gt; 4人</p>				
実習者の声	<p>・「公」と「民」がうまく連携し、良い空間を作っているという印象を受けました。市民の方々ともふれあうことができ、貴重な経験となりました。</p>				

地区及び実習場所		日時			
山手地区いきいきサロン (山手地区公民館)		11月19日(月)午後1時30分から			
実習者	北川 友子(福祉指導監査室)	担当	三枝	社協	大谷 大上
内容	<p>この日は、吹田警察署から道路交通事故の注意喚起と、自転車盗難や振り込め詐欺などの情報提供があった。短い時間ではあったが、とてもわかりやすく話され、参加者も聞き入っていた。昨今高齢者の事故は多いようで、普段歩く道だからといって油断せずに注意することが大事とのことである。</p> <p>その後は来年の干支、巳のタペストリーの作り方(折り紙製)について福祉委員から説明がある。昨年も同じように竜のタペストリーを作成していたようである。作成を始めると最初は簡単であったが、段々と複雑になりペースについてゆけなくなった。参加者の皆さんも苦勞されており、指導する福祉委員の方が会場中を回っていた。また、参加者同士で作り方をお互いに教え合うなどして、あちらこちらで楽しそうな声が聞こえた。</p> <p>&lt;参加者&gt; 20人    &lt;スタッフ&gt; 11人</p>				
実習者の声	<p>・多くの市民の方が参加していて驚きました。参加されている方が、積極的に交流されているのが印象的でした。</p>				

地区及び実習場所		日時			
豊一地区子育てサロン (豊一児童センター)		11月21日(水) 午前10時から			
実習者	嶋田 孝(福祉指導監査室) 佐竹 和英(国民健康保険室)	担当	原田	社協	野田
内容	<p>この地区の子育てサロンでは、男性スタッフの数が比較多かった。主に会場準備のための力仕事や参加者が来る時間帯の門前で案内、また、子どもが敷地外に出ないように出入口付近での見守りなどを行っていた。女性スタッフは、受付や母親や子どもへの声かけ、助言を行っており、役割分担しているようであった。</p> <p>使用する部屋は床が固くて冷たいため、スポンジマットを敷き詰めたり、座布団を円形に並べたりといった準備がされていた。</p> <p>10時前からだんだんと参加者が来はじめ、置いてある座布団に座っていたが、最初はグループになって話しをするといった風ではなく、隣同士で話しをする程度であったが、スタッフからの声かけや子どもたちとおもちゃで遊んだりしているうちに、何人かで集まって話しをするようになっていた。</p> <p>このサロンでは、4ヶ月から1歳くらいの子どもの数が多いとのことだった。4ヶ月健診の際にサロンのちらしを配っているとのこと、この日も5ヶ月の子どもの半数以上であった。また、9組の親子が初参加だった。</p> <p>11時前くらいには、垂水保育園から保育士2名が来て、風船遊びや親子体操、絵本の読み聞かせ、育児相談を行った。保育園の11月の献立表も配布されて、食事についてのアドバイスをうけている母親の姿もみられた。熱心に保育士に質問している母親も多く、日頃気になっていることを相談する良い機会になっているようであった。</p> <p>研修で参加した職員2名は、男性であったこともあり、最初はとまどっているようであったが、スタッフから声をかけられると、受付を手伝うところからはじめ、その後、母親たちと話しをしたり、子どもたちとおもちゃなどで遊んだり積極的に参加していた。</p> <p>&lt;参加者&gt; 32人    &lt;スタッフ&gt; 10人</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不勉強ながら、今までこのような活動が行われていたことを知らなかったので、とても参考になりました。</li> <li>・今まで知らなかったが、地域で地区福祉委員やCSWの方々により様々な取り組みがなされていて非常に良いと感じた。</li> </ul>				

地区及び実習場所		日時			
山三地区子育てサロン (亥の子谷コミュニティセンター)		11月22日(木) 午前10時から			
実習者	及川 功(議会事務局 総務課) 柏本 美樹(亥の子谷地域保健福祉センター) 山岡 亮太(福祉総務課)	担当	原田	社協	佐伯
内容	<p>この子育てサロンは、会場が亥の子谷コミュニティセンターの多目的ホールを使用しているため、大変広いスペースを使って子どもが遊ぶことができるようになっていた。部屋はフローリングの床になっているおり土足で入るため、スポンジマットを敷いて、親子が座って遊んだり、歌を歌ったりする場所が作られていた。その他にも、子どもがぶつかって怪我をしないよう受付の机の角を緩衝材で覆うなどの安全性に配慮した準備がされていた。</p> <p>また、牛乳パックで作った柵の中にビニールボールをたくさん入れてボール遊びができる場所が作ってあったり、紐をつけたダンボールがいくつか用意してあり、子どもがダンボールに入って大人が紐を引っ張って遊べるようになっていたりして、子ども達が楽しく遊べるような工夫がされていた。</p> <p>この日は曇天で気温も低かったため、参加者が少ないのではないかと危惧されていたが、開始時間が近づくと参加者が集まりはじめ、ほぼ通常どおりの参加者数だったことだった。このサロンには、4ヶ月くらいから3、4歳くらいの子どもまで幅広い年齢の子が集まっていた。また、山三地区以外からの参加者もあり、五月丘地区や豊中市から参加する人もいるとのことだった。</p> <p>スタッフは全員女性で、保育士や教師をしていた人も多いとのことだった。開始時刻ころになると、スタッフの一人が電子ピアノで伴奏をし、何人かのスタッフが前に出て、参加者と一緒に歌を歌ったり、体を動かしたりしていた。この際にも、絵や歌詞を書いた模造紙が張られていたり、誕生月の子のお祝いをするためにケーキの形をした手作りのおもちゃが用意されていたりと、大変手の込んだ演出がされていた。スタッフは子ども達が楽しく参加できるように気を配っているのが感じられた。</p> <p>また、この日は食育の話をするため保健センターの栄養士がきていた。母親達は熱心に話を聞いており、色々と質問している母親もいた。</p> <p>母親が話を聞いている間、大きな子どもはスタッフとともに遊んでおり、研修に参加した職員3名も、母親たちと一緒に話を聞いたり、遊んでいる子どもたちに声かけしたり、一緒に遊んだり積極的に参加していた。</p> <p>&lt;参加者&gt; 39人 &lt;スタッフ&gt; 13人</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを育てることの難しさ、親同士のコミュニティ作りはとても大事だと思いました。</li> <li>・親同士のコミュニケーションの場として機能しており、重要なものだと感じた。</li> <li>・地域福祉を充実したものにしていく為には、地区福祉委員やボランティアの方々の力が大きいと改めて実感しました。</li> </ul>				



地区及び実習場所		日時			
千新地区子育てサロン (千里山竹園児童センター)		12月5日(水) 午前10時15分から			
実習者	本郷 夏美(市民税課) 山中 久司(介護保険課) 黒木 隆介(福祉総務課)	担当	黒木	社協	長谷川
内容	<p>千里新田地区子育てサロン「のびのび」は、子育て中の親同士が、子どもを遊ばせながらおしゃべりをする場として、児童センターの1階で月1回、毎月第1水曜日に開催されている。</p> <p>初めにスタッフの方々と挨拶・自己紹介をし、サロン代表の方とCSWからサロンの説明を簡単に受けた後、まずは受付の手伝いをさせていただくことになった。参加者が来られると、順次受付にて名前を確認し、名札代わりにタックシールを渡す。タックシールは地区内で住所別に色分けされており、これにより各参加者が地区のどこから来たかが分かるので、近所同士で交遊を築くことができるのだという。</p> <p>開始からしばらくすると、参加者が2階へと移動し始めた。地区福祉委員会が行うサロンだけでなく、児童センターも、育児中の親子向けに様々な取組みを実施しており、毎週水曜日は10時30分から15分間、歌や音楽にあわせて親子で身体を動かす「リズム体操 チャチャチャ」が行われている。私たちもサロンを一旦離れて見学させていただいた。</p> <p>リズム体操が終わり、サロンに戻ると、多くの参加者で賑わっていた。子どもを自由に遊ばせる横で、親同士は雑談や子育てに関する意見交換などをされている様子が印象的だった。0歳の子どもがいる親同士でも、初めて育児をする人、2人目の子だという人がそれぞれおられ、そのような中で先輩から後輩に、経験談を話したりする様子も見受けられた。</p> <p>時間になりサロンは終了。サロンの片付けを手伝い、最後にスタッフに挨拶をして解散した。実習者の中には子どもの頃、放課後に児童センターを利用していた人もいたようだが、午前中育児中の親子向けの取組みがされていることは知らなかったようで、最初は戸惑いながらも、後半は子ども達と一緒に楽しんでいった。</p> <p>&lt;参加者&gt; 21組44人    &lt;スタッフ&gt; 5人</p>				
実習者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場では自分が思っていた以上に地域住民からの需要があり、地区福祉委員会の活動が社会を支えていることを実感しました。</li> <li>・子育てサロンに参加させていただきましたが、せっかく地域福祉活動の現場まで行ける機会ですので子育てサロン後、児童センターの事業(園児向け、小学生向け等)を知ることができたら、より地域福祉への理解が深まると思いました。</li> </ul>				



地区及び実習場所		日時			
吹一地区いきいきサロン (内本町コミュニティセンター)		12月14日(金)午後2時から			
実習者	平尾 真江 (国民健康保険室)	担当	黒木	社協	寺沢
内容	<p>地区福祉委員会活動はサロンの運営をはじめ、ふれあい昼食会や世代間交流など、活動内容は多岐にわたっており、業務量も膨大になっている。そのような中、地区によっては、地区福祉委員会の中からサロン担当などの委員を決めている地区もあるが、吹一地区では、従来の地区福祉委員に加え、各自治会から別途1名ずつ地区福祉委員を選出、委嘱し、その人達を地区福祉推進委員と位置付け、主にいきいきサロンの企画・運営に携わってもらっている。当日も会場に到着すると、地区福祉推進委員のジャンパーを着用したスタッフの方々が、サロン開始に向けて賑々しく準備をされていた。</p> <p>時間になり、サロンがスタートした。吹一地区では毎月、さまざまな企画をされているが、今回は、地区内にある「もみの木保育園」の園児を招いて、歌や交流を行うものであった。</p> <p>地区福祉委員長、CSW、実習者のあいさつの後、子どもたちがステージに登場。はじめに、「赤鼻のトナカイ」や「クリスマスがやってくる」などのクリスマスソングを全員で合唱した後、ハンドベルによる「シングルベル」、発表会で習ったダンスの披露など、参加者の手拍子に合わせて、子ども達も元気よく歌ったり踊ったりしてくれた。</p> <p>その後、子ども達にも各テーブルに混ぜてもらい、参加者と一緒にぬいぐるみ回しゲームやひらがなカードを使ったゲームなどを行った。実習者とともに、一緒にゲームに参加させていただいたが、全力でゲームに取り掛かる子ども達に元気を分けてもらったようで、参加者やスタッフも一緒になって盛り上がり、最後まで白熱したものになった。</p> <p>&lt;参加者&gt; 19名 &lt;スタッフ&gt; 12名</p>				
実習者の声	<p>・いきいきサロンに参加しました。その日は地元の保育園児による催しがあり、皆様笑顔で参加していたことが印象的でした。グループ対抗のゲームと一緒に参加し、皆で協力できたことが良かったです。</p>				

## 6 参加者のアンケート結果

### (1) 事前講義についての意見

- ・ 社会福祉協議会の存在を知らない部内職員がいたことについて、少し考えさせられるものがありました。
- ・ 体験実習前に心の準備ができてよかったです。
- ・ 少人数で社会福祉協議会の方の話を聞くことができ、質問がしやすく回答も丁寧にしてください分かりやすかったです。

### (2) 今後、参加してみたい地域福祉活動がありますか？

- ・ 子育てサロン（複数意見）
- ・ いきいきサロン（複数意見）
- ・ 見守り声かけ活動（複数意見）
- ・ 世代間交流事業
- ・ ふれあい昼食会
- ・ 社会福祉協議会との協働事業（ボランティアフェスティバル、防災の取組等）

### (3) 研修全体について

- ・ 地域で実際に行われている地域福祉活動を知ることができて有意義であった。
- ・ 充実した時間を過ごせました。このような場があることで、子育てがしやすくなり、人とのつながりが生まれてくるのではと思いました。地域で様々な活動をされている方たちの姿を見ると日々の業務の励みになります。
- ・ 高齢の方々とのふれあいはあまり機会がありません。実習に参加して、とても楽しくされている皆さんと一緒にふれあうことができ、元気をもらいました。地域の人々の連携はすごいものだと感じました。若い職員の方にもたくさん参加してほしいと思います。
- ・ 研修と交流を通じ、貴重な体験をさせていただきました。地域の活動を行ううえで、会場や人員等の問題もありなかなか難しいかと思いますが、もっと参加できる高齢者の方が増えたら良いなと思いました。
- ・ 地区福祉委員会へもう少し予算や協力機関が充実すれば良いなと感じた。
- ・ 私の部署でも何か地域福祉活動に関わることがないか考えてみたいと思いました。
- ・ 講義に参加できず残念でしたが、体験実習に参加したことは貴重な経験になったと思います。
- ・ 体験実習があり、地域の活動を直接見ることでできる点が良いと思う。
- ・ 日常的な人と人のつながりが、安心安全な市民生活を営む上で大切であるということは分かっているながらも、なかなか活動に踏み出せない人も多く、皆さんが無理なく協力して参加できる仕組みやきっかけを一緒に考えていくことも行政職員の役割のひとつと勉強になった研修でした。
- ・ 公民でそれぞれの役割があり、地域福祉の推進を図るうえで協働することの大切さを学ぶことができました。
- ・ 福祉や市民活動に関わる職場を始め、それ以外の多くの職員にも体験してもらいたい研

修だと思います。

- ・良い研修の場だと思いますので、必須研修にしてはどうでしょうか。
- ・地域福祉活動に実際参加することで、具体的な活動内容がわかり、大変勉強になりました。
- ・今まで自分の知らなかった地域福祉活動にふれることができ、とてもよかったです。
- ・これから市政に携わっていくうえで、ためになる良い経験ができました。
- ・体験実習の前に講義を受講し、事前に知識を得ることができたのでよかったです。
- ・実際に体験し現場を感じるにより、自分が考える福祉の視野が広がるように思いました。「公」と「民」で相互理解を深める場にもなるので、このような参加型の実習を今後も続けてもらいたいと思います。
- ・パンフレット等の資料を読むだけでは、なかなかイメージがわからない部分があったので、実際体験して、雰囲気や参加者の意見も聞いて良かった。
- ・地区福祉委員会の活動を名前では知っていても、実際どのような方が主催し、どのような方が参加し活動しているのかわからなかったなので、このような研修を通じて少しふれることができ、貴重な体験をすることができました。
- ・現場のほんの一部分を見せてもらっただけですが、職場にいるだけではわからない実態を知るきっかけになりました。
- ・児童虐待や、高齢者の孤独死といった問題があるので、地域福祉活動の役割は大切だと感じました。
- ・福祉保健部にいながら、地域でどのような福祉活動をしているか知らなかったなので、少しでも理解を深めることができよかったです。貴重な体験ができ、今後の業務に生かしていきたいと思います。
- ・子育てサロンに参加しましたが、子どもに限らず地域の住民がつながることの素晴らしさを感じることができました。多くの人に体験していただきたいと思います。